

事業を終えて

各々の専門職の役割をしっかりと果たす姿、 とても輝いて見えました！

これまで、福祉の職場や介護の現場では「想いやりと優しさ」に注目することが多かったと考えています。しかし今回の調査結果から、「幅広い視野」と「明確な経営戦略」が加わることで、人を惹きつける福祉・介護の環境づくりが可能となり、後継者を育て、自らも学びを続けることが介護の新たな可能性を導き出すことが分かりました。また、施設Cでのインタビューを通して、それぞれの職種が共通認識として「患者（利用者）のQOL向上」を意識しながら、各々の専門性を生かし協働している姿を見ることができました。

患者（利用者）さんに寄り添った支援にて、その方の人生を輝かせたいという想いを大切に、一人ひとりの自己実現に向けて専門職の役割を果たしていることが分かり、患者（利用者）さんも職員の皆さんどちらも、輝いてみえました。

Comment

実際に現場で働く人の話を聞き、自分が看護師として働く上で何が必要か考える必要があると思いました。

町田 太哉

取材した方々はそれぞれ仕事に対するやりがいや主張を持っており、自分自身も意見ややりがいを持って働きたいと思いました。

浅野 光

一人ひとり自分の理想や目的をもっているのが面白く、自分も理想や目的をもって行動しようと思いました。

渡邊 泰朋

富山コミュニティ論を通して、これまでの人生を振り返ろうと思いました。

松岡 雅大

介護職に従事していたものとして、同じ介護福祉士の話を知ったことを看護師を目指す上で知識として生かしたいと思いました。

明法寺 洋

富山コミュニティ論を通して福祉職場の良いところなどが分かり、今後勉強していく上でもっと多方面に関心を広げていきたいと思いました。

市橋 拓実

富山コミュニティ論を通して私自身、看護師を目指し学んでいく上での考え方、意識の持ち方が変わり、いろいろな視点から物事を見ていけるようになりたいと思いました。

松川 朱里

福祉職場で働く方々の仕事や利用者さんに対する想いがとても伝わり、働き方や関わり方は人それぞれだけど自分の意見をしっかりと持って何事にも取り組んでいきたいと思いました。

泉 知里

福祉職場で働く方々の話から、福祉職場での仕事のやりがいや魅力をより深く感じ、将来自分も仕事に誇りを持って働いていきたいと思いました。

阿知良 希

今も、これからも多くの職種が連携して、人が地域で暮らしていくことを支え、自分自身もそこで暮らしていく社会を作っていくことが求められます。（地域包括ケアの時代）

看護という道を選んだ学生たちがそんな中で、今回のテーマに向かって活動してきました。学生たちは、地域の中で人が暮らしていくことを支え、そして輝いている人々と出会い、自分自身の将来を見つめることができたようです。

この調査をとおして私も、一回りもふたまわりも成長した学生たちに出会うことができました。彼ら彼女らが今後、看護職として福祉、医療、介護の現場で輝くことを楽しみにしています。

看護学科
炭谷 靖子 教授



制作 富山福祉短期大学 看護学科
「福祉職場で働く人々の魅力再発見グループ」

お問い合わせ 富山福祉短期大学 共創福祉センター事務局
TEL : 0766-55-5567 FAX : 0766-55-5570
E-mail : K.FUKUSHI@te.urayama.ac.jp



平成 28 年度 大学コンソーシアム富山事業
学生による地域フィールドワーク研究
富山福祉短期大学 看護学科

プロジェクトメンバー

町田 太哉、松岡 雅大、松川 朱里、明法寺 洋、市橋 拓実、
浅野 光、阿知良 希、泉 知里、渡邊 泰朋

はじめに

自分たちの手で“福祉の魅力”を伝えたい。

高齢化が進む現代において、介護を必要とし福祉施設や地域で生活している高齢者は増加傾向にあります。一方、福祉の現場の人材確保は依然として厳しい状況が続いています。短大の授業で福祉の現状を知り、このままでは高齢者が安心して過ごす社会をつくることはできないのではないか…と危機感を抱くようになりました。

そこでこの状況を改善するために、福祉の職場で働く魅力を私たちの目線を通して広く発信していくことが大切だと考え、今回の活動を行うことを決めました。

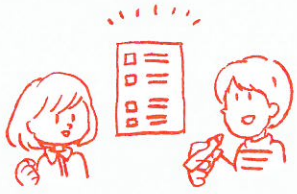
富山福祉短期大学 看護学科1年
プロジェクトリーダー 町田 太哉



魅力発見方法

STEP.1 事前準備

プロジェクトメンバーで話し、インタビュー項目を選定し、インタビューガイドを作成しました。



STEP.2 模擬インタビュー

インタビューガイドを基に、福祉の場で勤務経験がある先生を相手に取材の練習を行いました。



STEP.3 インタビューの実施

福祉施設で働く5名の方にインタビューを行いました。



STEP.4 データの整理

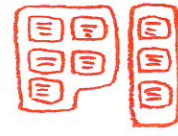
音声データを基に逐語録を作成。その後、KJ法[®]※により取材内容の分析を行いました。

KJ法[®]とは...

手順1
聞き取ったことをラベル化する



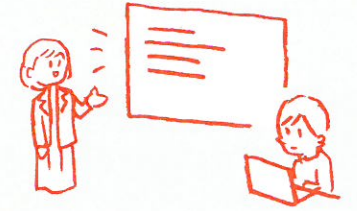
手順2
4~5人のグループに別れて、関連する内容のものをつなぎ合わせて整理・統合していく



参考図書：川喜田 二郎著「続・発想法 KJ法の展開と応用」(中公新書)

STEP.5 学内発表とリーフレット作成

今回の調査内容をより多くの方にとってため、発表会やリーフレット作成等を行いました。



調査研究 題目

福祉の現場において、多職種で協力しながら活躍する人々の魅力に関する研究

ご協力いただいた3つの施設（調査対象者：5名）からあがった意見をもとに、プロジェクトメンバーが導き出した答えを発表します。

施設A 施設長

30代男性 施設長
インタビュー内容から91枚のラベルを作成。意味内容から5つの島を導き出すことで、施設長さんが普段考えていることが見えてきました。

理想に向かって努力し、行動している人

魅力発見!

導き出した言葉... **鳥の目** 現実には厳しいが広い視点で、介護の現場を見ていきたい

理想 利用者の健康保持、職員の生きがいを尊重し、利用者が輝ける施設にする

→ 利用者の増加につながり経営のプラスになる

理想を叶えるためには...

想いやり 未来を開くのは相手を想いやる介護の心

戦略 施設を立ち上げたのが3年前。苦労は多いが、やりたいことのためには、パワー・想い・継続力が必要。根拠をもった計画で進んでいきたい

同士 人には向き不向きがある。SNSなどを活用して、やりたいことをアピールしていくことが必要

想いや戦略があることで「同士」が集まる!

施設B 施設長

40代女性 施設長
インタビュー内容から75枚のラベルを作成。意味内容から6つの島を導き出すことで、施設長さんが普段考えていることが見えてきました。

自分らしさを大切に地域とともに理想に向かっている人

魅力発見!

導き出した言葉... **介護の未来** 常に学び続けながら、新しい可能性を求めて自分たちの手でつくりあげていく

理想 利用者が来て良かったと思える、居心地の良い場所であること

理想を叶えるためには...

人生 これからの自分の介護の仕事を大事にしていきたい

利用者との関わり 利用者さんと関わるなかで得られることが多いので、楽しく仕事をしている

職場づくり 後継者を育成するため、協働した職場づくりが大切

地域とのつながり 地域のことを知り、地域の人に知ってもらい、関係を築き、役割を作っていくことが介護ケアにつながる

施設C

介護職、リハビリテーション職、看護職の3職種の人にグループインタビューを実施。45枚のラベルを作成し、意味内容から5つの島を導き出すことで、3名の方が普段考えていることが見えてきました。

40代女性 看護師 勤務年数：2年

看護師として専門性があり、人生を学べる場で働き続けたいと考えている人

魅力発見!

20代男性 理学療法士 勤務年数：2年

人を大切にし、人生に関わる仕事・職場で専門職の楽しさを感じている人

魅力発見!

20代女性 介護福祉士 勤務年数：6年

自立・自律を支え、その人の人生を輝かせることを専門としている人

魅力発見!

導き出した言葉... **人々のQOL (Quality Of Life) 向上を目指し、自分を磨き、未来をひらく**

多職種から魅力発見!

共通の意見

QOL向上 看護師も介護士も技術に根拠が求められ、QOL向上のための学びが必要

看護職

深く広い経験

クリニックや急性期の病院等で培った技能や知識を、老人保健施設で活かすことができる

リハビリテーション職

人生を学ぶ

人生の先輩と関わるができる仕事は魅力的である

専門性を磨く

「してあげる・してもらう」の関係ではなく、高齢者の特徴を学び、自宅復帰に向けてどう楽しく生きてもらうかを考えていく

介護職

未来をひらく

これまで歩んできた自分の人生を糧にしながら、これからの人生(仕事)を大切にしていこう